



富山県

No.73 2014年10月

中央植物園だより



第17回私の植物写真展応募作品「布施川の花」 撮影／関口衛さん

ヒガンバナ（ヒガンバナ科）

名前のとおり秋の彼岸の頃に咲き、堤防や田畑の法面が花で赤く染まる。ヒガンバナは日本には縄文時代か弥生時代に救荒植物として中国から導入されたという説や海流に運ばれてきたという説がある。



第2回「新春カトレヤ展」

来年も1月4日に臨時開園し、新春カトレヤ展を開催します。ランの女王といわれるカトレヤはこの時期もっとも多く品種が開花します。富山県蘭協会のご協力により多くの品種を展示する予定です。



BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

「日本植物園協会第49回大会・総会」開催レポート

平成26年6月12日(木)～6月14日(土)の3日間、「公益社団法人日本植物園協会第49回大会・総会」が開催されました。これは年1回全国の加盟園の持ち回りで開催されており、富山県では平成9年(第32回大会)以来の開催となり、全国から110名の参加がありました。大会は12日午後から市内のホテルで開催され、開催園、協会会長の挨拶に引き続き、来賓として須沼英俊富山県農林水産部長の祝辞がありました。続いて協会表彰式が開催され、式上、中央植物園の兼本正主任研究員が木村賞を授賞しました。この賞は協会の功労者木村巨氏を記念して設けられた賞で、植物園の管理、植物の育成、研究等に顕著な功績があった者に贈られるものです。兼本主任がパラグアイオニバスの栽培方法を確立し、展示やイベントに安定して利用できるようになった事が評価されました。続いて日本ツバキ協会に図書寄贈に対する感謝状が贈呈され、大会が終了しました。



木村賞を受賞した兼本正主任研究員(右)。左側は北中進日本植物園協会会長。

後半の定期総会では審議・報告が行われ、その後、富山市科学博物館の太田道人主幹学芸員による記念講演会「富山の自然と植物の多様性」を行いました。講演会では富山県の海岸から高山帯の多様な自然環境に成立する植物相について紹介されました。13日は午前中に分野別(大学、国公立、私立、薬学の4分野)会議が開催され、午後からの研究発表会ではポスター発表5件、口頭発表6件が行われました。14日の最終日は会場を中央植物園内に移し、午前中に施設見学、午後は公開シンポジウム(第22回TOYAMA植物フォーラム)「ふるさと富山の植物を守ろう」を開催して閉会しました。



太田道人氏による記念シンポジウム。



最終日の植物園見学時に参加者記念撮影

「第22回 TOYAMA 植物フォーラム」レポート



総合討論にて発言するパネリスト(左から山下氏、遊川氏、大原氏、座長の神戸企画情報課長)

6月14日(日)に第22回TOYAMA植物フォーラムと植物園協会第49回大会公開シンポジウムを兼ねて開催されました。「ふるさと富山の植物を守ろうー生物多様性戦略と植物園の役割」と題して、県自然保護課山下清澄氏から今年3月制定した「富山県生物多様性推進プラン」の概要が説明され、日本植物園協会植物多様性保全委員会の遊川知久氏からは、植物の保全には科学と人の力を結集させることが大切で、植物園がその拠点となることが強調されました。さらに中央植物園大原主任から、県内でのサクラの新品種の紹介と生きた文化財ともいえる貴重な園芸品種の保全の取り組みについての解説がありました。

植物園トピックス 富山県植物誌改訂版編集委員会事務局が発足

1983年に発行された「富山県植物誌」から30年が経過し、その間に記録された新分類群を追加収録し、最近の分類学に対応した内容とするため、関係者で「富山県植物誌改訂版編集委員会」を組織し、平成30年の発行を目指して活動することになりました。中央植物園は関係機関の中で最もスタッフの数が多ことから、事務局を務めることになり、さる6月3日に初版の執筆者である長井眞隆先生を迎えて発足会議を開催いたしました。21名の委員中、14名の出席をいただき、ニュースレター「Ranzania」の発行、役員を含む会則、編集スケジュールなどが検討され、意見交換が行われました。



ドリアスホールで開催された富山県植物誌改訂版編集委員会発足会議で発言される長井眞隆先生。

研究紹介◎『寄贈された標本の中から発見された大正初期のアメリカフウロ標本』

企画情報課主任 大原隆明

今年の6月、富山市在住の方より自宅で保管されていた324点の植物さく葉標本の寄贈を受けました。これらの標本は寄贈いただいた方の祖父が大正4年(1915年)から同6年(1917年)の間に県内各所で採集・作成されたもので、その大半は採集地や採集年月日が明らかな資料性の高いものでした。そこで、これらの標本の再同定調査を行ったところ、富山県では現在絶滅が危惧される状態になっているトチカガミやミズトンボなど、多数の貴重な標本が含まれていることが判明しました。

その中でもっとも興味深い1点が今回ご紹介するアメリカフウロ *Geranium carolinianum* の標本(図1)です。この標本は大正4年に富山県師範学校(富山市西田地方)の校庭で採集された果期のもので、ラベル上には同属のタチフウロ *G. kramerii* の名前が記入されていました。しかし、葉の裂片は基部近くまで深裂し細かく分岐し、花柱の分岐部は長さ1mm程度と短いなどの特徴があり、明瞭にタチフウロとは異なるものでした。また、ゲンノシヨウコ *G. thunbergii* などにも類似しているものの、果実には長い剛毛と短毛が混ざって生え、種子表面に細かい網目模様があるなどの特徴が確認できることから、アメリカフウロと同定されるものでした。



図1. アメリカフウロの標本

アメリカフウロは現在では全国に広く分布しており、東北地方から沖縄県の各地で確認されています。

富山県でも今世紀に入った頃から急速に広がり始め、現在では都市近郊の空き地や路傍を中心にやや普通にみかけますが(図2)、本種はもともと北アメリカ原産の帰化植物であり、日本では牧野富太郎が昭和8年(1932年)に京都市で生育しているのを見出して報告したのが最初の記録とされています。しかしながら、今回寄贈された標本はそれを17年遡る大正4年に採集されたものであり、この標本の存在が明らかになったことによりアメリカフウロの日本への侵入時期がさらに早かったことが明らかになりました。

このように、さく葉標本はその地域における植物の歴史を物語る重要な証人です。偶然にも標本が寄贈された今年6月には、富山県植物誌の改訂版を作成するための編集委員会発足会議が中央植物園で開催され、編纂への動きが具体的に始まりましたが、植物誌編纂の上でもっとも重要な資料となるのが、採集した年月日や場所が明らかな富山県内産の植物さく葉標本です。このような標本をお持ちの方があれば、ぜひ情報をお寄せください。



図2. 2002年に富山県中央植物園の近くで確認されたアメリカフウロ

植物園の月例行事と講習会 その2 緑のコンサート

今年度は植物園で定期的の実施している講習会や月例行事を紹介します。今回は緑のコンサートです。

「植物園でコンサートを」という要望におこたえして、平成22年度より月例行事「緑のコンサート」を5月から11月までの第1土曜日に実施しています。毎回射水市在住のシンセサイザー奏者滝沢卓さんにサンライトホールだけでなく、水上デッキ（写真左下）や熱帯果樹温室（写真右下）で演奏してもらっています。シンセサイザーの音色と周囲の生物や風の音とが調和し、土曜の午後ゆったりとした時間を過ごせると好評です。



屋外でも天気がよく過ごしやすい季節には、サンライトホール南側の水上デッキで演奏され、対岸の桜並木からでもシンセサイザーの音色が聞こえます。



サンライトホールがほかのイベントで使用中で、天気が良くない場合には、熱帯果樹温室での開催となります。少し狭いのですが、緑に囲まれた中で滝沢さんも気持ちよく演奏されています。

催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール

企画展には入園料が必要です。

くすりの植物コーナー開園1周年記念
「売薬版画と富山のくすり」
9月5日（金）～10月29日（水）

花と緑のコンクール入賞作品展
11月1日（土）～11月18日（火）

秋の盆栽展
11月14日（金）～11月16日（日）

第8回秋のラン展
11月22日（土）～11月24日（月・休）

クリスマスフェア
12月5日（金）～12月7日（日）

干支にちなんだ植物
12月12日（金）～1月21日（水）

第2回新春カトレヤ展

1月4日（日）～1月7日（水）
1月4日は臨時開園します。

■講座・講習会

★「売薬版画」解説

10月5日（日）
13:30～15:00
入園料が必要です。

★栽培講習会 「ランの栽培と管理」

11月23日（日）・24日（月・休）
13:30～15:00
会場 ドリアスホール
入園料が必要です。

植物園でバードウォッチング

12月7日（日）
9:00～11:00
入園料が必要です。

■月例行事

月例行事には入園料が必要です。

緑のコンサート

10月4日（土）、11月1日（土）、
14:00～15:00

植物ガイド

ーボランティアと歩く植物園ー
第1、2、4日曜日 13:30～14:00

ー園長と歩く植物園ー

第3日曜日 13:30～14:00
集合場所/サンライトホール

★印は植物園ボランティアの養成講座です

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00（入園は16:30まで）
（11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで）
休園日 毎週木曜日
（4月中とGW、お盆、祝日の場合は開園）
年末年始（12月28日～1月4日）

入園料	大人（一般および大学生）	500円
	団体料金（20名以上）	400円
	高校生以下通年無料	
冬季入園料（12月～2月）		
	大人（一般および大学生）	300円
	団体料金（20名以上）	240円
	高校生以下通年無料	
年間パスポート（購入日より1年間有効）		2,000円

交通案内 JR富山駅から、富山地铁バス「ファボーレ」経由菟の島循環または「ファボーレ」経由速星行き（休日のみ）に乗りし「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分／富山市中心部より車で約15分／北陸自動車道富山インターより車で約15分／JR速星駅より車で約8分

富山県中央植物園だより No.73

編集・発行／富山県中央植物園（指定管理者：公益財団法人 花と緑の銀行）
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42 TEL076-466-4187 <http://www.bgtym.org/>
平成26年9月25日発行 印刷／株式会社富山スガキ